

岡崎市西牧野遺跡における 旧石器時代の一考察

● 社本有弥

岡崎市に所在する西牧野遺跡は県下で有数の旧石器時代の包含層を持つ遺跡である。当センターと愛知県埋蔵文化財調査センターのそれぞれが調査を行い、旧石器時代遺物の出土を多数確認している。しかしながら、この遺跡についての研究は少なく、未だ愛知県内での位置付けもはっきりしていない状態である。そこで、西牧野遺跡の旧石器時代の様相を解き明かすために遺物の分布から時期の検討を行うものである。

1. はじめに

西牧野遺跡は岡崎市に所在する遺跡で、平成21年度に当センターが、平成22年度に愛知県埋蔵文化財調査センターが調査を行なっている。確認された遺構・遺物の時代は旧石器時代から近世までと幅広く、長期間にわたって断続的に人が住んでいたと考えられる。

2. 研究史概観

西牧野遺跡における旧石器時代の研究には、白石浩之氏の研究がある(白石2017)。白石浩之氏は、遺物の分布をブロックとして区分し、石器組成や形態、石材といった観点から相違的な区分が可能であるか検討を行なった。石器集中地点である09Cb区と隣接する09Cc区では計5つのブロックに分けられること、時期は上層と下層で分けられることが指摘されている。そして、西牧野遺跡の編年的位置付けについて上層の石器群は岩宿Ⅱ並行期、下層の石器群を岩宿Ⅱより古手で、始良Tn火山灰降灰以前の可能性があるとしている。

今回は西牧野遺跡でも愛知県埋蔵文化財センター調査の旧石器時代史料について検討を行う。石器群の時期は分けることが可能であるか、またその時期について検討するものである。

3. 石器群について

旧石器時代の遺物は、09Cb区と09Cc区に

集中して出土している(図1)。特に09Cb区は調査区全体に広がっており、いくつかの集中地点も確認できる(図2)。遺物に目を向けると、ナイフ形石器、角錐状石器、尖頭器といった狩猟具に伴って削器や搔器、石錐などが出土している。ナイフ形石器が主体として出土しており、いわゆるナイフ形石器文化期に比定される。

使用された石材は主に凝灰岩と黒曜石で、チャートが伴っている。黒曜石は産地分析が行われており、全てが和田峠系の黒曜石である。

4. 石器の分布

09Cb区の石器の分布についてみていく。垂直分布を見ると、上下にそれぞれにまとまりがみられる(図3)。また土層断面に合わせて見ると、図3-1の4層、図3-4の3層では遺物の出土が薄く、間に一層挟んで上下で石器群が別れるものと考えられる。以降、上部の石器群を上層石器群、下部の石器群を下層石器群とする。

続いて平面分布を見てみると、上層石器群は09Cb区の南東よりに分布しているのに対し、下層石器群は北西よりに分布している。

5. 石器群について

ここからは上下の石器群がどのような様相を呈しているのかについて見ていく。

上層石器群の石器組成は、ナイフ形石器・角錐状石器・石錐・削器・搔器である(図4)。ナイフ形石器に注目すると、柳葉形のナイフ形石器と切出形のナイフ形石器で構成されている(1

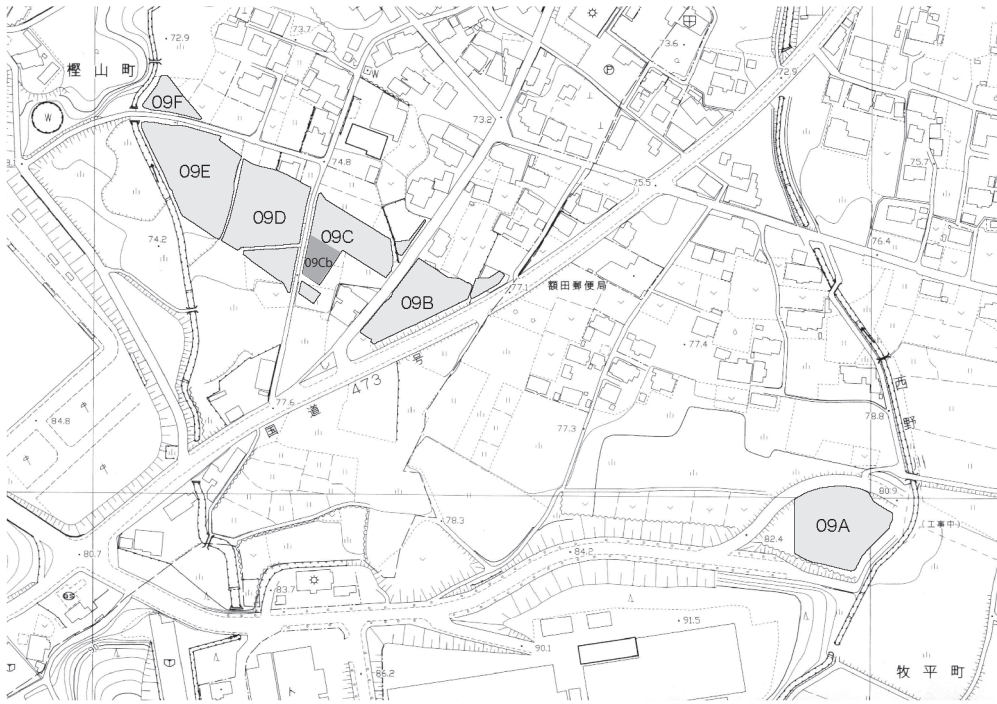


図1 西牧野遺跡周辺と埋蔵文化財センターの調査区

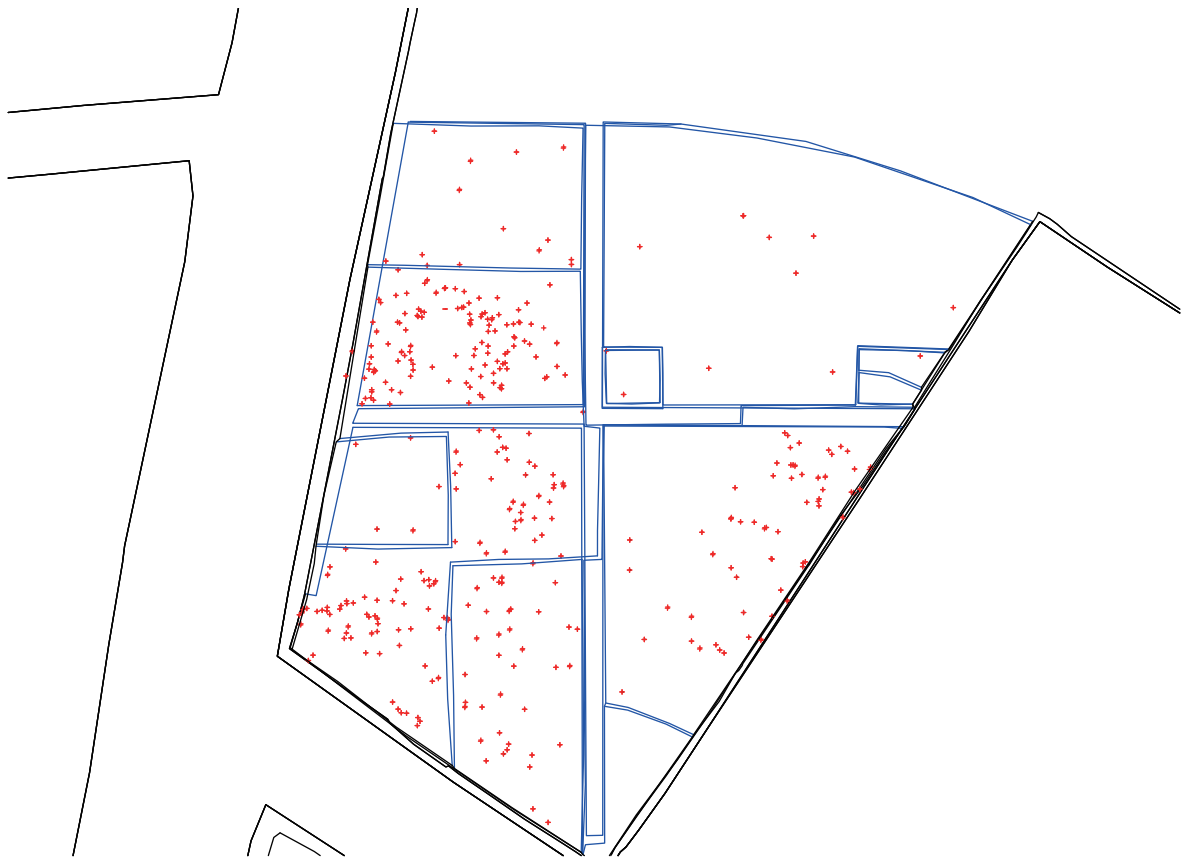


図2 09Cb区、遺物の平面分布

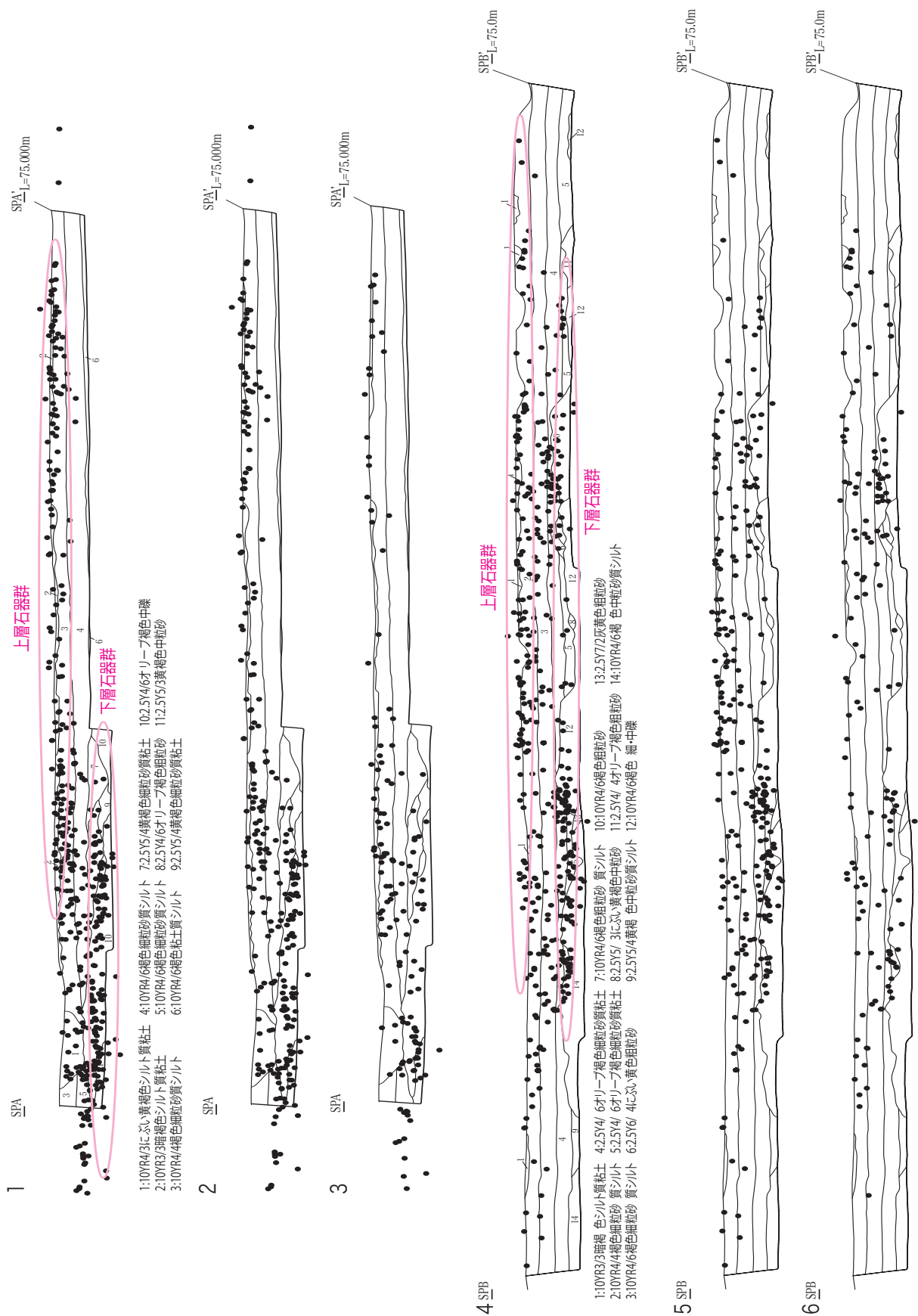


図3 Cb区、遺物の垂直分布

～4)。素材となる縦長剥片を切断・加工しているものと、末端部の縁辺を残して加工をするものがある。素材剥片の利用については形態によって変わるものではない。削器は不定形、搔器は円形(9)とやや拇指状を呈するもの(10)となっている。削器は寸詰まりの縦長剥片を素材としており、搔器は加工は著しいため素材剥片の形態は不明であるが、比較的厚みのある剥片を使用していると考えられる。角錐状石器の素材剥片は恐らく横長剥片が使われている。石核・剥片を見てみると、ナイフ形石器の素材となっている縦長剥片を剥離している石核が占め、角錐状石器の素材となっている横長剥片を剥離したと思われる石核は少ない。打面を作出し、連続して縦長剥片を作出するような石核もいくつか見られるが、主体はさまざまな方向から剥片剥離を行なっている石核と言える。出土している剥片も縦長剥片や寸詰まりの剥片は多く、横長剥片は見られない。

続いて下層石器群の石器組成はナイフ形石器、削器、搔器となっている(図5)。ナイフ形石器は二側縁加工や一側縁加工のナイフ形石器が主体であるが、上層石器群に見られた柳葉形や切出形と言うような定形的なナイフ形石器は見られない。素材剥片は縦長剥片が主体と考えられるが、横長剥片を使っているものがある(8)。また、7・8のように先端部に刃部を残し、大部分に加工を施しているものも見られる。削器・搔器についても定形的なものではなく、不定形である。石核・剥片を見ると、石核は一方向から連続して縦長剥片を作出していたと考えられるものが主体で、剥片も縦長剥片や寸詰まりの剥片が主体で、幅広の不定形な剥片はあるが、8の素材になりそうな横長剥片は見られない。

6. 石材について

ここで少し石材について見ていく。西牧野遺跡における石器石材の主体は凝灰岩と黒曜石であり、一部チャートが入り込む形となっている。凝灰岩・チャートはいわゆる在地系の石材で、黒曜石は遠隔地石材である。西牧野遺跡で出土した黒曜石については分析されており、和田峠系(星ヶ塔・男女倉)であると結論付けられて

いる(酒井 2013)。

7. 石器群の時期

上下の石器群の特徴を改めて挙げ、その時期について検討する。

まず上層石器群であるが、ナイフ形石器・角錐状石器・石錐・削器・搔器を有している。ナイフ形石器の形態は柳葉形と切出形である。削器は不定形であるが、搔器は円形や拇指状を呈している。角錐状石器や切出形のナイフ形石器が見られるため、いわゆる岩宿Ⅱ文化期に並行すると考えられる。続いて下層石器群であるが、ナイフ形石器、削器、搔器を有している。定形的な石器はなく、一部横長剥片を素材としたと思われる石器が見られる。切出形のナイフ形石器を伴わないことから岩宿Ⅱ文化期より古い段階であろう。

8. おわりに

以上、西牧野遺跡における旧石器時代の出土遺物について検討を行なった。上層の石器群は切出形ナイフや角錐状石器を伴う文化で岩宿Ⅱ並行、下層石器群は特徴的な形態を持たない文化と言え、AT降灰直後またはAT降灰前の可能性がある。上層と下層の間に1層挟まっているようにも見えるのでAT降灰以前と言うことは十分に有り得ることである(白石 2017)。今回の検討は報告書上の範囲に留まっているため、未報告の資料を加えた検討は次回の課題とした。また、愛知県埋蔵文化財調査センターが調査を行なった調査区でも旧石器時代の遺物がまともに見つかっており、こちらについても今後検討を行いたい。

謝辞

本論をまとめるにあたり愛知県埋蔵文化財センターの蔭山誠一氏にお世話になった。

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2002 『愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文』
酒井俊彦 2013 『西牧野遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第174集
白石浩之 2017 「愛知県岡崎市西牧野遺跡の遺物分布から見たナイフ形石器文化の様相」 『東海石器研究 第7号』

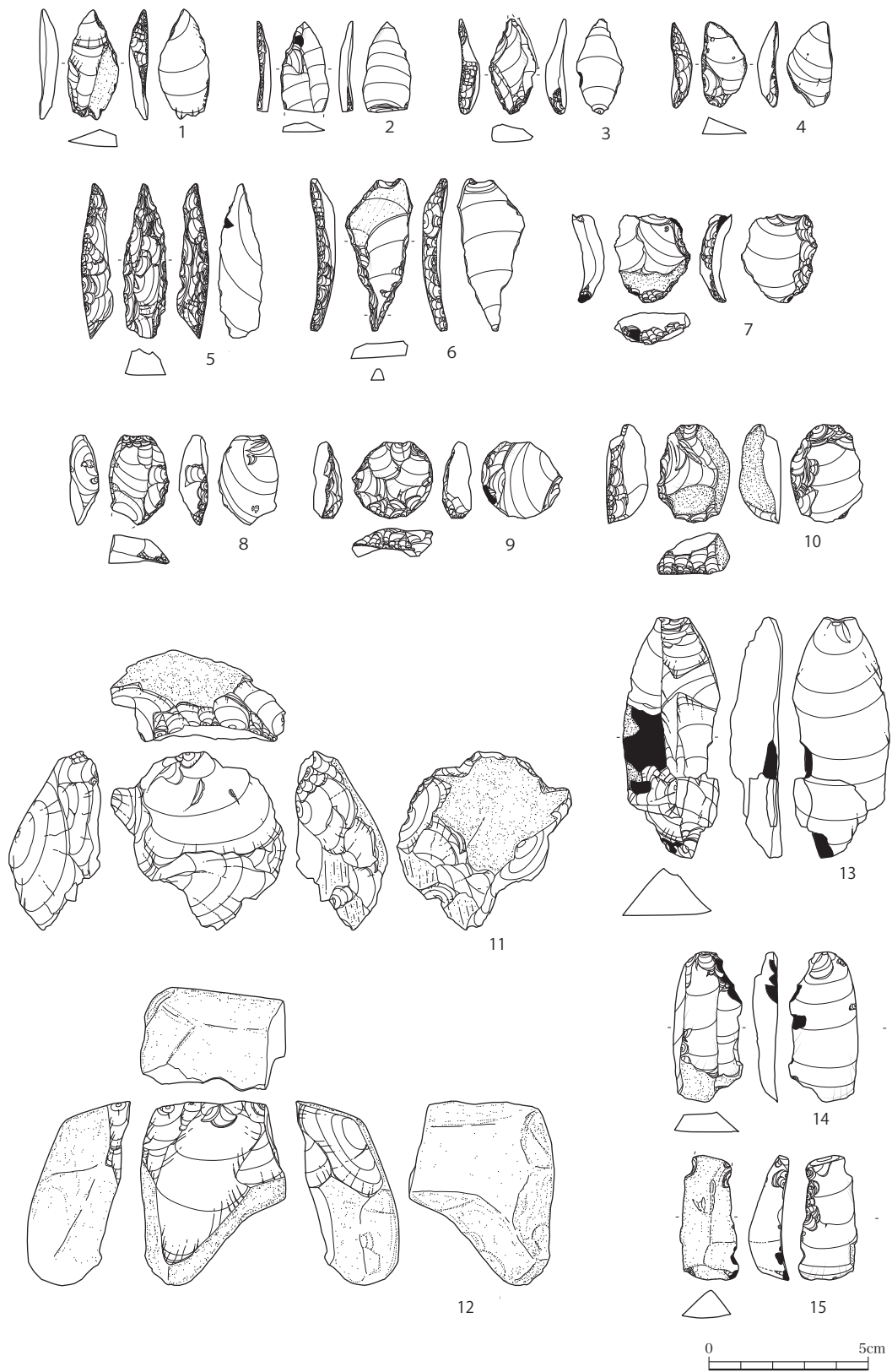


図4 上層石器群 (1/2)



図5 下層石器群 (1/2)